

図書館だより

No.14

- 変化する知の宝島 学生総務担当副学長 増田 祐志
- 大学近くの図書館に出かけてみませんか
- グローバル・コンサーン研究所による「働く」って何だろう Book Fair が図書館内で開催されました

- 上智大学生がビブリオバトル首都決戦で優勝
- 図書館にもできること
図書館では特別支援学校の生徒を実習生として受け入れています
- 図書館掲示板 中央図書館 開館カレンダー
図書館展示企画のご紹介

変化する知の宝島

学生総務担当副学長
増田 祐志



わたしが上智大学に入学した1982年には、図書館は現2号館が建っている場所にあった旧2号館の中に設置されていた。一階はレファレンス・雑誌・新聞コーナーで、その上階に閉架式の図書貸出しコーナーと閲覧室があったのを記憶している。大学入学直後に縁あって、わたしは図書館一階の雑誌コーナーのアルバイトに採用され働き始めた。新着雑誌や新聞の入れ替えや配架などが主な仕事だった。当時の上智会館（現在のE棟前広場にあったビル）内の男子学生寮に住んでいたわたしにとって便利なアルバイトであったが、地方からでてきたばかりのわたしは、英語のみならず世界中の雑誌・新聞にあふれている図書館の風景に圧倒される思いを抱いたものであった。

当時、現在の中央図書館が建築中で、わたしが二年生の後期（現秋学期）からその引越し作業がはじまった。当時の閉架式システムから現在の開架式に移行するために、図書にバーコードシールを貼って登録する作業を延々とさせられたのを覚えている。1984年5月に開館したばかりの中央図書館の入り口のカウンターに、アルバイトのわたしが座って貸出し・返却の手続きを行い、その作業の合間にバーコード入力作業を続けていた。

さてタイトルである。図書館はなんと言っても知の継承の場であり、その意味で知の宝島なのである。その宝島も日々変化していく。上智大学の図書館は閉架式から開架式へ、さらに現在はIT化へと日々進化を目指している。閉架式といっても多くの学生諸君には理解できないであろう。当時は蔵書が奥まった書庫にあり、カウンターで自分が読みたい・借りたい本を図書目録カードから探し出し、その図書情報を記した書類を受付カウンターの

職員へ申請し、職員が書庫からその図書を捜しだしてカウンターで申請学生に渡すという、今から思えばなんともまどろっこしい手続きである。当時は防犯システムも発達していないし、蔵書は大学の最も貴重な財産のひとつであったので、このようなやり方であったのだろう。その後、中央図書館に移って開架式になり、自分で図書を自由に手に取れるようになった時の感動は忘れられない。そびえ立ち、延々と並ぶ書架の数々。その中で自分のお目当ての書籍を見つけた時の「あった!」というなんとも言えない感覚、また書架を見ているうちに「この本おもしろそう」と思いがけずに見つけて借りた本から受けた知的刺激。

閉架式のときは一冊の本に出会い手にするために膨大な時間と手間がかかった。それだけに本はまことに貴重なものだったのである。開架式になっても、自分で本を探し、時には分厚く重量感のある書籍を何冊も運ぶ手間や労力がかかった。知の継承はまことに手間ひまがかかったのである。ところが現在は電子書籍や図書システムのIT化などで、瞬時に膨大な情報を手に入れられる。それは時宜にかなったことである。知の継承の形態も変化していくのである。しかし、変わらないのは図書館は一たとえバーチャルな図書館であろうと一、知を手に入れるためには自分で探検しなければならない宝島であるということである。アナログよりデジタルのほうが便利であっても、それでもあふれる情報の中から自分が見つけたい知の宝箱は、結局は自分で探さないと得られない。情報が多くなればそれだけ回り道や寄り道も多くなり時間を浪費し、時には迷路に迷い込んで脱出不能になってしまう。安易に手に入った知はその名に値しないかもしれない。本物の貴重な知は、いつの時代も情報と知の宝島である図書館での労苦に満ちた探検の末にしか手に入れられないのである。本校の図書館を利用するすべての人が、知の宝探しのエキサイティングな旅を楽しんでもらいたいと願っている。

ちなみに、現在も、わたしは中央図書館の蔵書のバーコードを見るたびに、「これはわたしが貼付し入力した図書かも」という、余人には得がたい想像をひそかに楽しんでいる。

大学近くの図書館に 出かけてみませんか

そろそろレポートや試験の時期が近づいてきます。いつも上智大学図書館で過ごしている人は、たまには環境を変えて勉強してみませんか？ 思いがけない本との出会いがあるかもしれません。

今回の図書館だよりでは、上智大学生なら誰でも利用できる近くの図書館をご紹介します。

日本カトリック大学連盟図書館協議会に加盟している大学図書館は、紹介状なしで利用することができます。利用する際に学生証を必ず持参してください。

また、大学近くの千代田区立の公共図書館もご紹介します。



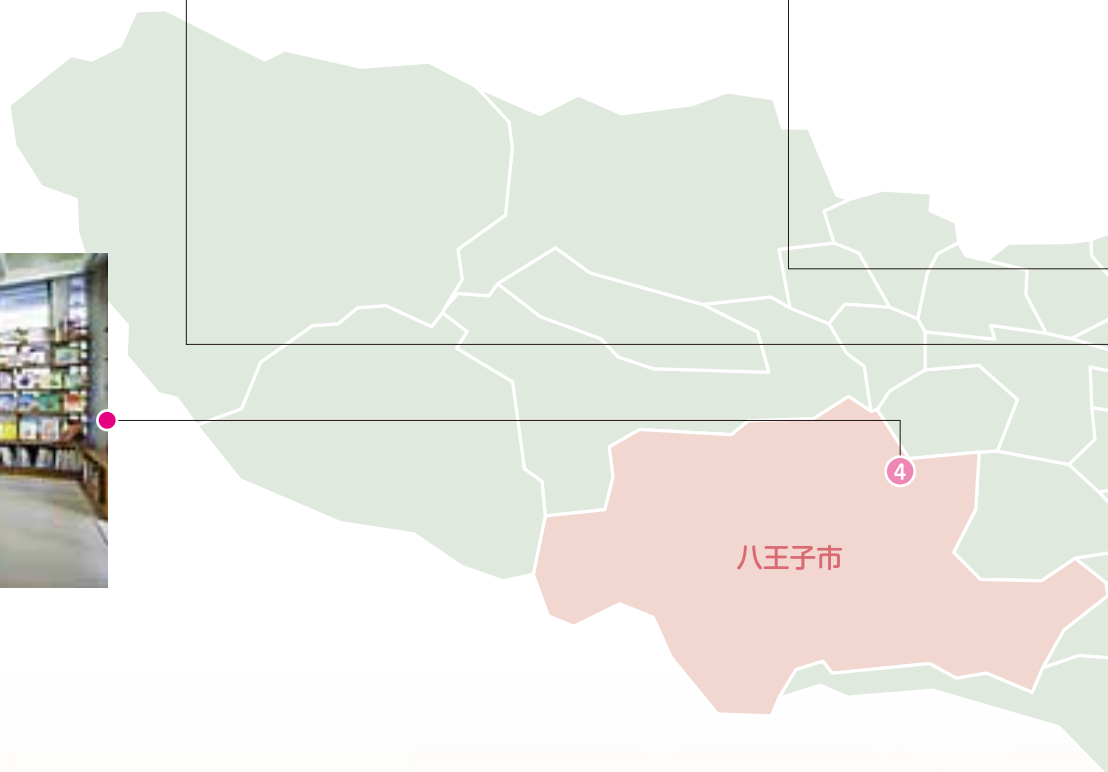
③ 白百合女子大学図書館



② 聖心女子大学図書館



④ 東京純心女子大学図書館

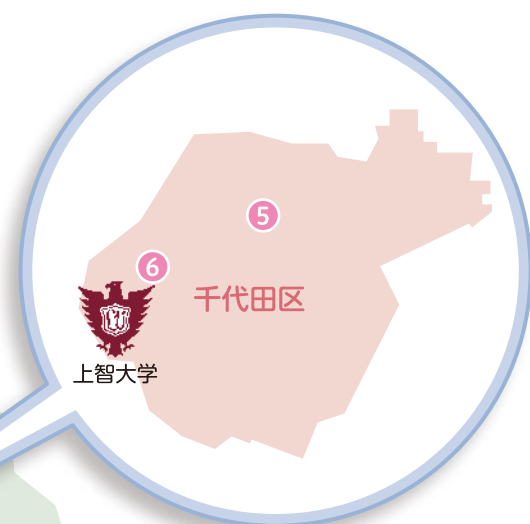


大学名	所在地・問い合わせ先	代表的なアクセス
① 清泉女子大学図書館	〒141-8642 品川区東五反田3-16-21 Tel. 03-3447-5551	JR山手線、都営地下鉄浅草線、東急池上線 「五反田」駅から徒歩約10分
② 聖心女子大学図書館	〒150-8938 渋谷区広尾4-3-1 Tel. 03-3407-5297	東京メトロ日比谷線 「広尾」駅から徒歩約3分
③ 白百合女子大学図書館	〒182-8525 調布市緑ヶ丘1-25 Tel. 03-3326-5143	京王線 「仙川」駅から徒歩約10分
④ 東京純心女子大学図書館	〒192-0011 八王子市滝山町2-600 Tel. 042-692-0326 内線223	JR中央線 「八王子」駅からバス約15分 「純心女子学園」下車
⑤ 千代田図書館	〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所9・10F Tel. 03-5211-4289・4290	東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線 「九段下」駅から徒歩約5分
⑥ 四番町図書館	〒102-0081 千代田区四番町1 Tel. 03-3239-6357	本学から徒歩約15分



⑥ 四番町図書館

⑤ 千代田図書館
詳しくは4ページをご覧ください。



① 清泉女子大学図書館

5 千代田図書館

千代田図書館は公共図書館で初めて電子資料の貸し出しを始めたことで注目を集めている図書館です。

ビジネス書が多く、平日は夜10時まで開館していることから、社会人の利用が多いのも特徴です。

その他にも千代田区の情報の集積地として、神田古書店連盟と共催した展示や千代田区に関係のある作家や施設ごとの図書の配架を行い、区内の情報を発信しています。



展示ウォール

千代田区と関連のある企画を展示しています。
取材を行なった際には、「ビジネス大賞」の本が紹介されていました。

コンシェルジュ

図書館利用についての案内のほか、千代田区内の
地域案内も提供しています。



6 四番町図書館

四番町図書館は、上智大学から一番近い千代田区立図書館です。

2012年春にリニューアルし、エントランス脇には無線LANが利用できるラウンジができました。

千代田区立図書館の共通の貸出券が発行・利用できるほか、他の千代田区立図書館で借りた本を返却することができます。

働くってなんだろう？
自分は何のために
働くのだろう？

意味のある
仕事って
なんだろう？

グローバル・コンサーン研究所による

「働く」って何だろう Book Fair が 図書館内で開催されました

9月29日(金)から11月5日(木)まで行われていた Book Fair、皆さんもご覧になりましたか？
企画のねらい、反響等をグローバル・コンサーン研究所員、三浦まり先生(法学部地球環境法学科
教授)から伺いました。

グローバル・コンサーン研究所(IGC)は従来から「働くこと」をめぐる問題に焦点を当て企画を立ててきましたが、今年は「就活カフェ」を開き、その発展形でブックフェアを開催しました。なぜ自分は働くのだろう、意味のある仕事って何だろう、という疑問は大学生にとって切実なものです。「キャリア教育」や就活ビジネスの情報に振り回され、本質的なことを見失いがちな昨今の風潮に流されることなく、自分と社会を見つめてほしいという思いから、88冊を選び展示しました。期間は9月28日から11月5日まで。同時に丸善でも一部展示書を販売して頂きました。(展示書リストはIGCホームページ*に掲載)

ポスターでのメッセージにも工夫を凝らし、1冊ごとに紹介文やポップをつけて、なぜIGCがこれらの本を学生に読んでもらいたいと思っているのかが伝わるよう配慮しました。期間中は図書館1階、IGC、丸善に多くの学生が立ち止まり本を手にとっていました。展示書の8割近くはブックフェア期間中に借り出されていることから、学生たちの関心に添った企画だったのではないかと思います。

ただ、自分を見つめ直す本は人気が高い一方で、若者の就職難を引き起こしている社会の構造に焦点を当てた本は借りられにくいという傾向がありました。学生たちの目をいかに社会へと向けさせるか、ここに大きな課題があることも痛感しました。今回の企画が好評だったことから、IGCではテーマを変えて定期的にブックフェアを企画し、本を読むことが好きな上智大生を増やしていきたいと考えています。

*IGCホームページアドレス : <http://www.erp.sophia.ac.jp/Institutes/igc/index.htm>



ポスターからの抜粋



図書館1階展示の様子(上2枚)

上智大学生が ビブリアバトル首都決戦で優勝

BIBLIOBATTLE



10月21日、ビブリアバトル首都決戦(全国大会)が東京で開かれました。このイベントは大学生達が自分の読んだ本の魅力を自分の言葉で紹介して、どれだけ多くの人にその本を読みたいと思わせるかを競うイベントです。読んでみたい本とも出会えるとても楽しいイベントです。

見事今年の優勝を勝ち取ったのは

総合人間科学部心理学科の鷹野宣章さん、

そしてチャンプ本に輝いたのは

◀『**「いき」の構造**』(九鬼周造／藤田正勝 著)

(配架場所 学部地下2階 請求番号 701.1 : Ku285ik)でした。

今回は鷹野さんにこの本の魅力を語ってもらいました。

日本人がカッコイイと感じる「いき」という美意識について論じた本がこの「いき」の構造です。著者の九鬼周造は90年前にヨーロッパで哲学を学んだ哲学者で、育ての親は世界中に「わび・さび」を伝えようとしたことで有名な岡倉天心です。2人で日本独特の美意識を伝えようとそれぞれが取り組んだことはすごいことだと思います。

また、この本の内容の魅力は大きく分けて2つあります。1つは今まで人々の肌感覚でしかなかった「いき」に関して哲学的な手法を用いて、分析しようとしたことです。本の中には「いき」が立体的な図形などで表されていて、客観的に「いき」とは何かということが見られる様になっています。

2つ目は現実の「いき」について論じる際に、扱うテーマが非常に私達にとって身近なもので、親しみやすいということです。例を挙げると、「いき」な人とはどういう人かを様々な観点(顔形・仕草など)から見えていたり、縦縞模様と横縞模様のどっちがより「いき」なのかを真剣に議論しています。哲学的手法とか、立体的な図形で表したと書くと、難しく、つまらないイメージがあるかと思いますが、決してそんなことはなく、興味がある人ならぜひ読んでほしい1冊です。

ビブリアバトルについては
公式ホームページ <http://www.bibliobattle.jp/> を参照ください。

BIBLIOBATTLE とは

「ビブリア」は書物などを意味するラテン語由来の言葉で、「ビブリアバトル」とは、立命館大学の先生が考案した、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「書評合戦」です。

ビブリアバトル(発表者)たちが、おすすめ本を持ち合い、1人5分の持ち時間で書評した後、バトルと観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定します。

各地区で予選会が行われており、今年は予選会に参加した大学生は524人にも上りました。首都決戦は東京都主催で開催され、作家で都副知事でもある猪瀬直樹氏は「書評の甲子園のような大会を盛り上げたい」とコメントを寄せました。

図書館では特別支援学校の生徒を実習生として受け入れています

中央図書館では定期的に足立特別支援学校の生徒（高校1 - 3年生）を実習生として受入れています。10月後半にも2名の2年生が実習をおこないました。

今回は「図書館で実習する」ということについて、専門的な見地から総合人間科学部心理学科 荻野美佐子教授にコメントをいただきました。

図書館で実習すること

総合人間科学部心理学科教授 荻野美佐子

発達に障害のある子どもたちの場合、その障害特性によって、環境条件の配慮が必要なこともあります。特別支援学校（以前は養護学校）の高等部を出た生徒たちは、従来、単純作業を中心とした作業所の場に入ることが多かったのですが、障害の多様化や、発達のアンバランスのために、環境の配慮をすれば、一般就労なども可能な人たちも増えています。特に、音への過敏さや対人関係の難しさを持った障害の人たちの場合、図書館の静かで整然とした環境は、彼らの能力を発揮できる場の一つと考えることができます。

足立特別支援学校からの実習生を受け入れていることを知ったのは、今春のことです。私がずっと関わっている療育の場の親御さんから、子どもが今度上智に実習に行きます、と言われて初めて知りました。

高等部の1年生の実習は、所蔵している図書が本当にあるかどうかを確認する蔵書点検で、バーコードリーダーの使い方を教わると、各自がそれぞれ1つの棚を担当して本を一冊ずつ読み取る作業をしていきます。単純なようですが、すべての本をダブらず抜かさず読み取り、修理が必要な本は修理に回すなど、細かい気遣いの必要な作業でもあります。近い将来の就労と自立に向けて細かいステップを踏んで少しずつ経験を積んでいくことが彼らにとってはとても重要であり、大学図書館がそのための場を提供していることの意義は大きいと考えています。



図書館では、図書、雑誌、電子資料の収集や提供をして研究や学習の支援をするばかりでなく、実習という場を提供することによって、特別支援学校生を支援しています。今後も、図書館の重要な機能のひとつとして位置づけ、実習生を受入れています。



中央図書館 開館カレンダー (2012年12月～2013年3月)

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

開館
時間

8:00～21:00
9:00～17:00
9:00～18:00
9:00～20:00
休 館

※中央図書館の貸出・レファレンス等のサービス時間および他館(室)のスケジュールについては、図書館ホームページ(<http://www.sophia.ac.jp/jpn/research/lib/schedule>)でご確認ください。
変更がある場合もホームページでお知らせします。

図書館展示企画のご紹介 —イエス・キリストの生誕から復活まで—

2013年、上智大学創立100周年を迎えるにあたり、本学の原点を訪ねる企画展「イエス・キリストの生誕から復活まで」を開催しています。普段は目にすることのできない貴重書『ベリー公のいとも美しき聖母時祷書』(ファクシミリ版)をはじめ、様々な言語で書かれた聖書や、クリスマスから復活祭に至るキリスト教の祝祭に関する資料を時節に合わせて展示していきます。

●場所：中央図書館1階 展示コーナー

●テーマごとの展示期間：

生誕：2012年11月6日～2013年1月6日

公現と洗礼：2013年1月7日～2013年2月12日

受難と復活：2013年2月13日～2013年3月31日



『ベリー公のいとも美しき聖母時祷書』

図書館だよりは、図書館ホームページ上でも公開しています。
これまでのバックナンバーもありますので、ご覧ください。

<http://www.sophia.ac.jp/jpn/research/lib/topics/dayori>



上智大学図書館だより No. 14

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1
TEL : 03-3238-3510
FAX : 03-3238-3139
発行日 2012年12月1日
印刷 三鈴印刷株式会社
TEL : 03-5276-0811